

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：83903

研究種目：若手研究

研究期間：2021～2023

課題番号：21K17322

研究課題名（和文）在宅介護高齢者の要介護の重度化予防に対する社会的関係性の役割の解明

研究課題名（英文）Investigation of the role of social relationships in preventing the severity of long-term care needs of home care older adults

研究代表者

野口 泰司 (Noguchi, Taiji)

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター・研究所 老年学・社会科学研究センター・研究員

研究者番号：40844981

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、要介護高齢者において高い社会的機能を有していたり孤食がないことは、低い重度化リスクと関連することを示し、要介護認定を受けた後でも豊かな社会的関係性を維持することの重要性を示唆した。また地域環境要因としての高齢者にやさしいまち（AFC）の評価尺度を構築し、個人の関係性だけでなく地域社会づくりの重要性も示し、加えて要介護高齢者の新規コホートの構築を行い、本領域における研究推進のための基盤づくりを行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本では介護保険制度の開始以降、要介護高齢者数は急増していることから、制度の持続的な運用の観点からも要介護の重度化予防の推進が急務となっている。重度化予防については社会関係や環境要因についてのエビデンスは乏しく、本研究を通じて要介護認定を受けた後でも、豊かな社会関係を維持し要介護高齢者を取り巻く社会環境整備を行う必要性を示唆した。また本領域の研究推進のために一次データの取得から新規コホートの構築もを行い、今後の分析を通じてさらなるエビデンス構築に繋げることができた。

研究成果の概要（英文）：This study revealed that having a high level of social functioning and eating together were associated with a lower risk of functional decline among older adults with long-term care needs, suggesting the importance of maintaining rich social relationships in this population. Additionally, the assessment scale of Age-Friendly Cities (AFC) as community environmental factor of older adults with disabilities was established, which showed the necessity of community development. Furthermore, we constructed a new cohort baseline data of older adults under long-term care and build a foundation for research promotion in this field.

研究分野：衛生学および公衆衛生学分野関連：実験系を含まない

キーワード：要介護高齢者 重度化予防 社会的関係性 社会的機能 孤食 高齢者にやさしいまち Age-Friendly Cities

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

要介護高齢者の「重度化予防」が社会的課題になっている。介護保険制度が開始した 2000 年から要介護認定者は増え続け、2019 年には 659 万人に上った。特に、軽度要介護者は増加の割合が大きく、増え続ける社会保障費の抑制と介護保険制度の持続的な運用のために、要介護の重度化予防の推進が政策的にも必要とされている。

高齢者の健康に対し、豊かな社会的関係性をもたらす役割が明らかになりつつある。社会的孤立は要介護や死亡のリスクとなり、豊かな社会関係は認知症や要介護リスクを抑制する。しかし、在宅介護を受ける要介護高齢者の「重度化予防」に対する社会的関係性の意義は十分に明らかでない。これまで高齢者の健康について社会的関係性を扱った研究の多くは、健常高齢者のみを対象としているものがほとんどである。また、要介護高齢者の重度化に関しては、個人の身体機能や介護サービス利用の検討に留まり、社会的要因についての報告は乏しい。要介護高齢者においても社会的関係性は QOL の基盤要因であり、その重要性が示唆されているものの、介護度の重度化や死亡といったハードアウトカムへの影響については十分に検討がなされていない。生活範囲が狭小化しつつある要介護高齢者は、地域社会から切り離される傾向にあり、地域への帰属意識の喪失は要介護度の重度化に大きく関わっている可能性がある。

また、世界的に Age-Friendly Cities/Communities (AFC: 高齢者にやさしいまち) が推進され (World Health Organization, 2023) 健常高齢者だけでなく、介護や介助が必要な高齢者であっても、社会参加でき、孤立しない地域づくりが求められている。要介護高齢者の豊かな社会関係と重度化予防に資する地域社会の環境として AFC の構築とその効果検証が期待される。しかし、国際的にも地域レベルで AFC 評価ツールは限られており、日本では構築されていない。

2. 研究の目的

本研究では、第一に、在宅介護を受ける要介護高齢者を対象に要介護の重度化予防に対する社会的関係性の影響を明らかにすることを目的とし、既存の縦断データの二次解析を通じて検討することを行った。また第二に、高齢者の健康・幸福や重度化予防に資する環境要因としての AFC の影響を評価すべく、日本において使用可能な AFC 評価尺度の開発とその妥当性検証を行った。第三に、一次データ収集も併せた要介護高齢者のデータ構築についても実施し、今後縦断的に検証可能な新しいコホート構築を行った。

3. 研究の方法

(1) 要介護高齢者における社会関係性と重度化の関連の検討

既存データとして日米 LTCI 研究会東京・秋田調査の二次利用を行った。本データは、2003 年をベースラインとし、東京 (葛飾) および秋田 (大館) において地域在住の要介護認定を受けた高齢者を対象にした訪問面接調査である。追跡調査として 2005 年、2007 年に同様に訪問面接調査が実施され、要介護者本人または介護者等の回答から要介護度などの予後状況を追跡可能である。本データを用いて、社会的機能および孤食 (一人で食事をとる) による要介護の重度化 (要介護度の進展、死亡、施設入所) への影響を検討した。社会的機能は、老健式活動能力指標の社会的役割の下位尺度を使用した (Koyano W, Archives of Gerontology and Geriatrics. 1991)。本尺度は、友人関係、情緒的サポート提供、手段的サポート提供、世代間交流の 4 項目から成り、0-4 点で得点化された (点数が高いほど社会的機能が高い)。孤食は、「一人で食事をすることが多いか」(はい・いいえ) の質問項目を使用した。

社会的機能に関する検討では、ベースライン時に要支援～要介護 1 の軽度要介護者を対象として、2 年後の追跡調査において要介護 2 以上の認定、死亡、または入所のいずれかの発生を要介護の重度化と定義し、ロジスティック回帰分析により解析を行った。孤食に関する検討では、ベースライン時に要支援～要介護 4 の認定を受けている者を対象とし、2 年後、4 年後の追跡調査時での要介護度 1 ランク以上の進展、死亡、または入所のいずれかの発生と定義し、混合効果モデルにより解析を行った。

(2) AFC 評価尺度の構築

日本老年学的評価研究 (Japan Gerontological Evaluation Study: JAGES) の 2016 年および 2019 年の調査データを用いた。まず、AFC 尺度の構築のために、World Health Organization (WHO) の示す AFC コア指標の 8 領域に沿って、調査項目から合計 23 の候補項目を選択した。2016 年および 2019 年調査いずれも調査該当エリアであった 17 市町村における計 61 地域 (学区区) の 45503 人 (2016 年) および 39313 人 (2019 年) を対象に、各候補項目について学区区ごとに回答を集計し、地域レベルのスコアとした。探索的因子分析により、因子的構造を検討した後、2016 年と 2019 年の各因子のドメインスコアについて相関分析を行った。また、2016 年調査データにおける 82611 人とその居住地の 145 地域を対象に、AFC の影響指標である健康と幸福 (主観的健康感、幸福感、抑うつ、機能的健康) に対して、エコロジカル分析およびマルチレベル分析から、健康・幸福に対する AFC 尺度の併存的妥当性を検討した。

(3) 要介護高齢者の新規コホートの構築

2つの新規コホート構築のための一次データ収集を行った。軽度要介護高齢者の新規コホートとして、愛知県知多北部4市町にて、要支援～要介護1の軽度認定を受けた高齢者とその家族を対象に、郵送および対面調査を実施した。自治体を実施する在宅介護実態調査の枠組みを利用し（在宅ケアとくらしの調査）15の市町村を対象に、要支援1～要介護5の高齢者とその家族介護者に郵送調査を実施した。

4. 研究成果

(1) 要介護高齢者における社会関係性と重度化の関連の検討

社会的機能に関する検討において、最終的に281人が解析対象となった。多変量解析の結果、社会的機能スコアが高いほど重度化の発生率が低くなり、3点以上では有意に低かった（1点：OR=0.85 [95% CI=0.42-1.70], P=0.642；2点：OR=0.42 [95% CI=0.19-0.94], P=0.036；OR=0.44 [95% CI=0.20-0.99], P=0.048；傾向 P=0.018）。また社会的機能スコアの項目別では、友人関係が低い重度化発生率と関連した（OR=0.38 [95% CI=0.19-0.78], P=0.009）。以上の結果は、Archives of Gerontology and Geriatricsにて原著論文として報告した（Noguchi T, et al., Archives of Gerontology and Geriatrics. 2022）。

孤食に関する検討においては、最終的に680人が解析対象となった。多変量解析の結果、孤食は、死亡、入所の発生率とは関連性を示さなかったが、要介護度の進展が有意に高かった。本結果は、老年社会科学において総説論文の中で結果を公表した（野口, 老年社会科学. 2023）。

(2) AFC 評価尺度の構築

最終的に、17項目、3因子から成るAFC評価尺度が構築された。3因子は、物理的環境（バリアフリーな屋外環境や建造物、移動資源へのアクセス性）、社会参加（地域グループへの参加、ボランティア、情報利用）、社会的包摂（高齢者への尊重と包摂性、認知症にやさしいまち）として特定された（それぞれクローンバック $\alpha=0.82, 0.78, 0.86$ ）。2016年と2019年では高い相関が得られ（ $r=0.71-0.79$ ）、テスト・再テスト信頼性が確認された。また、エコロジカル・マルチレベル分析を通じて、物理的環境は機能的健康と、社会参加は抑うつと機能的健康と、

社会的包摂は幸福感と関連し、健康・幸福指標に対する併存的妥当性が確認された。これらの結果は現在国際誌に原著論文として投稿中である。

(3) 要介護高齢者の新規コホートの構築

軽度要介護高齢者のコホートとして、郵送調査に614人の参加が、対面調査に81人（および42人の家族）の参加があり、ベースラインデータを取得することができた。2024年度もひきつづき調査を実施しベースラインデータの構築を行う予定である。

在宅ケアとくらしの調査については、2022年度にて調査を実施し、合計で3351世帯からの回答が得られ、要介護者と家族のペアでのデータ構築を行うことができた。本調査については、今後の追跡調査および要介護認定データとの突合からの転帰データの構築を通じて、縦断データを構築していく予定である。

<引用文献>

- Koyano W, Shibata H, Nakazato K, Haga H, Suyama Y. Measurement of competence: reliability and validity of the TMIG Index of Competence. Archives of Gerontology and Geriatrics, 13:103-116. 1991.
- Noguchi T, Nakagawa T, Komatsu A, Ishihara M, Shindo Y, Otani T, Saito T. Social functions and adverse outcome onset in older adults with mild long-term care needs: A two-year longitudinal study. Archives of Gerontology and Geriatrics, 100:104631, 2022.
- 野口泰司. 要介護者・認知症者の重度化予防・ウェルビーイング向上に対する社会的要因. 老年社会科学, 45(1):29-34, 2023.
- World Health Organization. National Programmes for Age-friendly Cities and Communities: A Guide. World Health Organization, Geneva. 2023.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Nogimura Akane, Noguchi Taiji, Otani Takahiro, Kamiji Koto, Yasuoka Mikako, Watanabe Ryota, Ojima Toshiyuki, Kondo Katsunori, Kojima Masayo	4. 巻 102
2. 論文標題 Chronic obstructive pulmonary disease and the mortality risk in male older adults: Role of socioeconomic factors	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 104741 ~ 104741
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2022.104741	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Noguchi Taiji, Suzuki Sadao, Nishiyama Takeshi, Otani Takahiro, Nakagawa-Senda Hiroko, Watanabe Miki, Hosono Akihiro, Tamai Yuya, Yamada Tamaki	4. 巻 26
2. 論文標題 Associations between Work-Related Factors and Happiness among Working Older Adults: A Cross-Sectional Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Annals of Geriatric Medicine and Research	6. 最初と最後の頁 256 ~ 263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4235/agmr.22.0048	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Noguchi Taiji, Shang Erhua, Nakagawa Takeshi, Komatsu Ayane, Murata Chiyoe, Saito Tami	4. 巻 22
2. 論文標題 Establishment of the Japanese version of the dementia stigma assessment scale	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 790 ~ 796
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14453	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Noguchi Taiji, Sato Michi, Saito Tami	4. 巻 10
2. 論文標題 An approach to psychosocial health among middle-aged and older people by remote sharing of photos and videos from family members not living together: A feasibility study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Public Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpubh.2022.962977	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noguchi Taiji, Hayashi Takahiro, Kubo Yuta, Tomiyama Naoki, Ochi Akira, Hayashi Hiroyuki	4. 巻 24
2. 論文標題 Living Alone and Depressive Symptoms among Older Adults in the COVID-19 Pandemic: Role of Non-Face-to-Face Social Interactions	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of the American Medical Directors Association	6. 最初と最後の頁 17 ~ 21.e4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jamda.2022.10.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noguchi Taiji, Hayashi Takahiro, Kubo Yuta, Tomiyama Naoki, Ochi Akira, Hayashi Hiroyuki	4. 巻 96
2. 論文標題 Association between family caregivers and depressive symptoms among community-dwelling older adults in Japan: A cross-sectional study during the COVID-19 pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 104468 ~ 104468
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2021.104468	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noguchi Taiji, Murata Chiyoe, Hayashi Takahiro, Watanabe Ryota, Saito Masashige, Kojima Masayo, Kondo Katsunori, Saito Tami	4. 巻 76
2. 論文標題 Association between community-level social capital and frailty onset among older adults: a multilevel longitudinal study from the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology and Community Health	6. 最初と最後の頁 182 ~ 189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/jech-2021-217211	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noguchi Taiji, Hayashi T., Kubo Y., Tomiyama N., Ochi A., Hayashi H.	4. 巻 25
2. 論文標題 Association between Decreased Social Participation and Depressive Symptom Onset among Community-Dwelling Older Adults: A Longitudinal Study during the COVID-19 Pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The journal of nutrition, health & aging	6. 最初と最後の頁 1070 ~ 1075
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12603-021-1674-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hayashi Takahiro, Noguchi Taiji, Kubo Yuta, Tomiyama Naoki, Ochi Akira, Hayashi Hiroyuki	4. 巻 98
2. 論文標題 Social frailty and depressive symptoms during the COVID-19 pandemic among older adults in Japan: Role of home exercise habits	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 104555 ~ 104555
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2021.104555	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noguchi Taiji, Nakagawa Takeshi, Komatsu Ayane, Ishihara Masumi, Shindo Yumi, Otani Takahiro, Saito Tami	4. 巻 100
2. 論文標題 Social functions and adverse outcome onset in older adults with mild long-term care needs: A two-year longitudinal study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 104631 ~ 104631
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2022.104631	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noguchi Taiji, Ishihara Masumi, Murata Chiyoe, Nakagawa Takeshi, Komatsu Ayane, Kondo Katsunori, Saito Tami	4. 巻 37
2. 論文標題 Art and cultural activity engagement and depressive symptom onset among older adults: A longitudinal study from the Japanese Gerontological Evaluation Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Geriatric Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/gps.5685	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 野口泰司
2. 発表標題 コロナ禍がもたらした今後の健康課題を考える - 保健医療福祉の連携、データの利活用、健康への影響 - 「地域高齢者への健康影響：コロナ禍における縦断調査結果より」
3. 学会等名 第68回東海公衆衛生学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中川威, 野口泰司, 小松亜弥音, 斎藤民
2. 発表標題 心疾患罹患に伴う人生満足度の変化の関連要因
3. 学会等名 日本老年社会科学会第64回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野口泰司, 尚爾華, 中川威, 小松亜弥音, 村田千代栄, 斎藤民
2. 発表標題 認知症スティグマ評価尺度の日本語版の作成
3. 学会等名 日本老年社会科学会第64回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小松亜弥音, 中川威, 野口泰司, 杉本大貴, 黒田佑次郎, 内田一彰, 小野玲, 荒井秀典, 櫻井孝, 斎藤民
2. 発表標題 最期の場所に関する希望の認知症患者と家族間での共有状況 NCGG-STORIES
3. 学会等名 日本老年社会科学会第64回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野口泰司
2. 発表標題 社会老年学の視座から認知症者・要介護者の重度化予防・ウェルビーイング向上を考える「要介護者の重症化予防・ウェルビーイング向上に対する社会的要因」
3. 学会等名 日本老年社会科学会第64回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takeshi Nakagawa, Takashi Sakurai, Taiki Sugimoto, Rei Ono, Taiji Noguchi, Ayane Komatsu, Kazuaki Uchida, Yujiro Kuroda, Hidehnori Arai, Tami Saito
2. 発表標題 Cognitive changes predict mortality in people with Alzheimer's disease: NCGG-STORIES
3. 学会等名 Alzheimer's Association International Conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野口泰司, 佐藤未知, 斎藤民
2. 発表標題 遠隔的な写真・動画共有による別居家族との交流促進の中高齢者の心理社会的健康影響 : a feasibility study
3. 学会等名 第1回日本老年療法学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野口泰司
2. 発表標題 アフターセッション 「遠隔的な写真・動画共有による別居家族との交流促進の 中高齢者の心理社会的健康影響 : a feasibility study」
3. 学会等名 第1回日本老年療法学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野口泰司, 柿崎真沙子, 金雪瑩, 村山洋史, 丹治史也, 田淵貴大, 斎藤民
2. 発表標題 家族介護者の介護終了後のメンタルヘルスの経過と近隣との社会関係 : 中高齢者縦断調査
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村田千代栄, 野口泰司, 中村廣隆, 斎藤民
2. 発表標題 ポジティブ心理学を応用したグループプログラムが高齢者の認知機能に与える効果
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 斎藤民, 野口泰司, 中川威, 小松亜弥音, 村田千代栄
2. 発表標題 一般成人における認知症者の社会参加に対する支援意識とその関連要因
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 林尊弘, 野口泰司, 窪優太
2. 発表標題 COVID-19流行下における地域在住高齢者の運動機能低下に対する余暇活動の緩和影響
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金雪瑩, 小松亜弥音, 野口泰司, 中川威, 斎藤民
2. 発表標題 特別養護老人ホームにおける介護職の離職に関連する施設特徴
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takeshi Nakagawa, Taiji Noguchi, Ayane Komatsu, Sayaka Okahashi, Tami Saito
2. 発表標題 Changes in Life Satisfaction During the First Year of the COVID-19 Pandemic: A Longitudinal Study of Japanese Adults
3. 学会等名 GSA 2022 Annual Scientific Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Taiji Noguchi, Takeshi Nakagawa, Ayana Komatsu, Erhua Shang, Chiyo Murata, Tami Saito
2. 発表標題 Interactions with People with Dementia, Learning Experiences, and Public Stigma Against Dementia
3. 学会等名 GSA 2022 Annual Scientific Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ayane Komatsu, Takeshi Nakagawa, Taiji Noguchi, Tami Saito
2. 発表標題 Involvement in Care Decision-Making and Adverse Outcome Onset in Community-Dwelling Care Recipients in Japan
3. 学会等名 GSA 2022 Annual Scientific Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野口泰司, 林尊弘, 窪優太, 富山直輝, 越智亮, 林浩之
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症流行下における独居高齢者の抑うつリスクに対する非対面交流の緩和影響：縦断研究
3. 学会等名 第9回予防理学療法学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 黒田佑次郎, 杉本大貴, 佐藤健一, 中川威, 斎藤民, 野口泰司, 小松亜弥音, 内田一彰, 小野玲, 荒井秀典, 櫻井孝
2. 発表標題 もの忘れ外来受診者における意欲の指標と生命予後との関連: NCGG-STORIES
3. 学会等名 第41回日本認知症学会・第37回日本老年精神医学会合同大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 野口泰司, 藤原聡子, 鄭丞媛, 井手一茂, 斎藤民, 近藤克則, 尾島俊之
2. 発表標題 高齢者にやさしいまちは家族介護負担による抑うつを軽減するか: JAGES
3. 学会等名 第33回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 村田千代栄, 中村廣隆, 野口泰司, 斎藤民
2. 発表標題 グループプログラムが高齢者に与える効果-混合研究法を用いた検討
3. 学会等名 第33回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 野木村茜, 大谷隆浩, 野口泰司, 中川弘子, 渡邊美貴, 山田珠樹, 鈴木 貞夫
2. 発表標題 多世代同居と主観的健康感の関連
3. 学会等名 第33回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 野口泰司, 窪優太, 林尊弘, 富山直輝, 越智亮, 林浩之
2. 発表標題 社会的孤立の変化と認知機能低下の関連—COVID-19流行期間における縦断研究—
3. 学会等名 日本老年社会科学会第63回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Taiji Noguchi, Masako Kakizaki, Ryozo Wakabayashi, Hiroko Nakagawa, Takeshi Nishiyama, Miki Watanabe, Akihiro Hosono, Kiyoshi Shibata, Mari Ichikawa, Hiroyuki Kamishima, Hiroto Watanabe, Kanae Ema, Kenji Nagaya, Tamaki Yamada, Sadao Suzuki
2. 発表標題 Social inequalities in second-hand smoking among Japanese adults: A repeated cross-sectional study
3. 学会等名 World Congress of Epidemiology 2020 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野口泰司, 林尊弘, 窪優太, 富山直輝, 越智亮, 林浩之
2. 発表標題 地域在住高齢者における社会参加状況の変化と抑うつ発生の関連: COVID-19流行期間中の縦断研究
3. 学会等名 第8回日本予防理学療法学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野口泰司, 中川威, 小松亜弥音, 石原眞澄, 進藤由美, 斎藤民
2. 発表標題 軽度要介護認定高齢者における社会的機能と重度化の関連: 2年間の縦断研究
3. 学会等名 第8回日本地域理学療法学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Taiji Noguchi, Takahiro Hayashi, Yuta Kubo, Naoki Tomiyama, Akira Ochi, Hiroyuki Hayashi
2. 発表標題 Family Caregiving and Depression among Older Adults in Japan: A Cross-Sectional Study during the COVID-19 Pandemic
3. 学会等名 GSA 2021 ANNUAL SCIENTIFIC MEETING (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 野口泰司, 藤原聡子, 鄭丞媛, 井手一茂, 斎藤民, 近藤克則, 尾島俊之
2. 発表標題 高齢者・認知症にやさしいまち指標と健康・幸福の関連：JAGES横断研究
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター研究所老年社会科学研究部 https://www.ncgg.go.jp/ri/lab/cgss/department/social/index.html 日本老年学的評価研究 https://www.jages.net/ 老年社会科学研究部 https://www.ncgg.go.jp/ri/lab/cgss/department/social/index.html 日本老年学的評価研究 https://www.jages.net/

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	斎藤 民 (Saito Tami) (80323608)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター (83903)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中川 威 (Nakagawa Takeshi) (60636942)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター (83903)	
研究協力者	小松 亜弥音 (Komatsu Ayane) (60881894)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター (83903)	
研究協力者	石原 眞澄 (Ishihara Masumi) (70759597)	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター (83903)	
研究協力者	近藤 克則 (Kondo Katsunori) (20298558)	千葉大学・国立研究開発法人国立長寿医療研究センター (12501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関